



発行所
燎原社

〒606 京都市左京区
東竹屋町・川端東入る
部落問題研究所内
電話 京都761-2141番
振替口座京都 6-15762番

発行人
木村 京太郎
1部 200円(税込)
年 2,000円(税込)

2・3月合併号



82, 2

石田昭子 とうきのふ

新役員紹介

一、顧問

住谷悦治(左・下鴨北園町六ノ三)

一、世話人代表

細野武男(左・小山上総町七九)

一、世話人

北牧孝三(南・大宮通八条西入)

木村京太郎(右・鳴瀧川西町八の二)

稻田達夫(左・下鴨北園町七五)

塙田庄兵衛(左・田中閑田町一ノ七)

鴨東ロイヤルハイツ・七〇六)

井上喜代松(上・新町鞍馬口上る東

和企業内)

小田切明徳(伏・向島ニュータウン

2Cの一〇三)

西村清三(伏見・桃山本多上野六〇三)

古館三徳(左・北白川西町八〇)

細川三西(東山・泉涌寺東林町三九)

品角小文(上・智恵光院竹屋町上ル)

斎藤雷太郎(上・千本今出川西入)

湯浅貞夫(船井・日吉町下保野田)

桐田剛吉(右・御室堅町二五一二)テ

(ラシオン・御室三一六)

石田昭子(大津市山上町二ノ八)

一、会計

井上秀雄(伏・東堺町四七二)

一、会計監査

岡谷元治(左・田中下柳町一)

大原健次(左・高木玉綱町一)

(順不同、敬称略)

京都民主運動史を語る会

一九八二年度総会報告

一九八二年一月二三日午後一時より上京区北野立本寺において、会員三〇名余出席して行われた。

まず、司会者として品角小文、湯浅貞夫氏を推し、世話人北牧孝三氏より新しい年を迎えてのあいさつあり、本会も二三回の例会と一二号の機関誌「燎原」を発行し、京都府下はもとより全国的にもその存在が評価され、大きな期待を持たれています。

昨年は、井垣、山田の両世話人を亡くし、会としては大きな痛手でしたが今年は、若い方々にも役員になつてもらい、広汎な各層の人々にも参加していただき、積極的な活動を進めたい、皆さんの御協力をお願ひします。

次に祝辞に移り、橘女子大学長の細野武男さんから、今年は民主府政奪還の年です。みんな力を合せてがんばりましょう」と激励のあいさつがあり、

次いで、定例の第二三回例会に移り日本蓮宗本山立本寺貫主から「原水禁運動」について、その歴史と現状を話された。
(別稿参照) 次に一九八一年度決算報告を(会計の井上秀雄氏から

総収入 一、六五七、五一五円
総支出 一、三六二、五〇〇円
差引 二六五、〇一五円の残

となっています。

一、知事選挙の件

この三月十七日からはじまる京都府知事選挙は「戦争と軍拡の林田か、和平と民主主義の川口か」という重要な選挙という意見がでて、全員一致で川口は先生を推すことを決定

二、今後の会の運営について

会員と誌友をふやすこと、現在会員、

誌友は一、〇〇〇名に足りない。早く

有料読者(会員)を一、〇〇〇名にふ

やして、第三種郵便物の認可をうけ、

送話を半減するようにしたい。会費は

りであります。

またそれだけでなく、もっと広はんな、国際的な階層や地域において、反戦・平和・独立のための統一、とくに一時的ではなく持続する統一が求められています。

今日参考に配付しました「宗教と平和」一月号に、有名な反戦平和活動家のロバート・オルドリッヂ氏(元ロックード社トライデント原潜設計技師)の発言が出ていますが、それには「統一の欠除、宗教団体間、諸国民間等に

違反国家賠償要求同盟、日本国民救援会、旧友クラブの会員で入会あるいは誌友になりたいと、各方面から要望がありますので「京都の民主運動」だけではなく、全日本の民主主義運動を再建するために、全員一致の御努力をお願いします。

会計報告に対して、岡谷元治会計監査より、記帳、決算の誤りなきことを証明され、議事に移りました。

三、役員の増員について

本会は「京都の民主運動を語る」だけなく、その教訓に学ぶことが第一である。若い会員をどしどし入会して頂くためにも若い役員を補充増員したい。まず当面、こんどの知事選機会に若い世話人を新しく増員したい。住谷悦治先生を顧問に推し、新しく細野武男先生を代表世話人になって頂き、従来の世話人の外に、浅川亨、古館三徳、湯浅貞夫、桐田剛吉、石田昭子の皆さんを増員し、「燎原」の発行も新規格をもって伸ばしてゆきたい。と、一同、立本寺玄閑前で記念写真の撮影をして、新しい意気込みで、飛躍発展を誓い、午后5時散会した。

新しい役員の氏名は一面に

原水爆禁止運動の統一と分裂

細 井 友 晋

(原水爆禁止京都協議会理事長)

が行われるのですが、鰐川前知事が築いたところの民主府政、これを新たに再建するために、平和民主勢力の統一がぜひとも必要であるとの要求が、重要な課題となっているのはご承知の通

りであります。

またそれだけでなく、もっと広はんな、国際的な階層や地域において、反戦・平和・独立のための統一、とくに一時的ではなく持続する統一が求められています。

今日参考に配付しました「宗教と平和」一月号に、有名な反戦平和活動家のロバート・オルドリッヂ氏(元ロックード社トライデント原潜設計技師)の発言が出ていますが、それには「統一が存在していない。政府の秘密保持が検閲を生み、検閲は分裂を助長する。米ソの国民は隔離されており、お互に意志の疎通ができないでいる。この二大分裂が最も大きな原因となつて核軍縮が進展しない」のだと言っています。

また私共の祖師日蓮という人は、これは精神的宗教的観点からですが「異体同心なれば万事を成じ、同体異心なれば諸事叶うことなし。一人の心なれども、二つの心あれば其の心たがいて成する事なし。百人、千人なれども

一つの心なれば必ず事を成す」ということを言っています。内容説明は省略しますが、まとうことで統一問題をとりあげることにしました。

(2)

私は一九五一年(昭二六年)に名古屋から京都へ来た者であります。その時は革新部門の政党、労組などの統一は、ある程度うまくいっていました。そして一九五五年(資料の略年表参照)第一回目の原水爆禁止世界大会が広島で開かれましたが、この当時の原水禁世界大会には政府も保守党も協力していました。初めは素朴な目的、内容の運動でしたが五八年の第四回世界大会の時あたりから運動が次第に発展しました。日本は核武装に反対するという課題が掲げられるようになりました。

それは今考えると、原水禁運動として当然のことであったのですが、具体的に核武装ということがはっきり把握できなかつた点がありました。自民、民社系の人たちは、核武装は政治的課題であるから、政治問題を国民運動の中に持ちこむのは反対であるという理解を主張して、それが受け入れられないと判断すると、大会を放棄しました。そして次の大会には補助金を出すことを停止したばかりでなく、地方自治体に圧力をかけて補助金を出させないようになりました。

こうして自民、民社系は大会を分離させました。翌六一年には駐日米大使ライシャワーが赴任してきて、日本の平和、民主運動を弱体化するための分裂工作を強硬に推しすすめることになりました。第七回世界大会では基地斗争

を原水禁運動と分離すべきだという意見が出されたのですが、その主張の根拠がどこにあるか判りませんでしたが、具体的には新島ミサイル実験場設置反対運動で、原水兵器運搬と密接に結びつくるものだったのです。意見の一一致を得ることができませんでした。

(3)

更に第八回世界大会(六二年)には、ソ連の核実験に反対するか、しないかが大きな問題となりました。それは米ソの核実験を同一視するかしないかの問題で、簡単に結論の出せない課題でありました。この問題に追いかけた第九回世界大会では、新たに米ソ英三国が制定した「部分核実験停止条約」を支持するかしないかでまた大きく意見の対立が起きました。ソ連代表から強い支持説が出ていたと言わればいいですが、全面的な核実験停止条約でなく、地下核実験だけは認められるという抜け穴を持つ条約であったことと、もう一つ核兵器独占に反対する中国の核実験を強く縛る条約であることによって、中国の強い反対が出され、言はば中ソの対立が日本の原水禁運動に持ちこまれるという、国際的要因を持つ意見であります。原水協の執行部は、意見の一致しない課題については、時間かけて辛棒強く話し合う必要が力説され、その案はソ中の代表にうけ入れられたのですが、にも拘らず突如社会党、総評系の大部分の代表が大会から脱落するという大分裂が起きました。

一九七七年日本で、「被爆問題国際シンポジウム」が開催された時、このよ

り開かれた国連の第二次軍縮特別総会で開かれた国連の第二次軍縮特別総会に向けての要請行動にあたって、日本二回世界大会でこんどは中国系の全代表がつまらぬことから会議をボイコットすることになったのです。こうして日本原水協に最後まで残ったのは、この日本の原水禁運動をあくまで守り抜かねばならぬと考えたグループと共産系諸団体だけになってしまったのです。一九六六年頃中国では文化大革命が起り、日本と中国の諸運動、団体が全面的に打撃を受けた時期の直前のことでした。

(4)

こうして日本原水協は約十年間寒い冬の時期におかれることになったわけですが、そのきびしい試練の中で、日本の貴重な原水禁運動の主体的な任務の自覚を明確に持たねばならぬこと。組織として自主独立を確立坚持せねばならぬこと。そしてそれらを理論のみでなく現実に処理できるまでに発展したのです。これは貴重な経験でした。また統一を守る基本的態度として、冬の時期におかれることになったわけですが、そのきびしい試練の中で、日本の貴重な原水禁運動の主体的な任務の自覚を明確に持たねばならぬこと。組織として自主独立を確立坚持せねばならぬこと。そしてそれらを理論のみでなく現実に処理できるまでに発展したのです。これは貴重な経験でした。

以上統一と分裂の歴史を原水禁運動の面からお話ししましたが、分裂の要因についても少し考察する必要があるのです。次回はそのことに就いてお話しいたします。(つづき)

三月例会(予告)

第24回三月定例研究会を次のとおり

ひらきます。
とき 三月二七日(土)午後一時半
ところ 上京区北野立本寺

テーマとゲスト

前回に引づいて、立本寺貫主の細井友晋師から、福祉より軍拡を強めようとしている世界の状勢と原水爆禁止運動の統一の急務についてお話しいただき、さらに今回の京都府知事選挙の必勝についてお話しします。

誘い合せゼヒ御出席下さい。

参加費 一名五〇〇円(茶菓費共)
京都の民主運動を語る会

京都府知事選挙

平和、民主主義、地方自治、生活の分れ道

日本の顔、京都の顔

京都の知事選挙は来る三月十七日に告示され、四月十一日投票の予定である。戦後迎える十回目の知事選挙であるが、いつも京都の知事選となると、「日本の夜明けは京都から」とか、「日本の灯台」とか云われて、京都の人々にとっては、いさか気恥かしい思いがなかつたわけでもないが、その自負がまた、励みともなつて来た。

一、京都は千年の歴史と伝統に生きる日本の顔である。

二、常に日本の政治を先どり土地である。

三、来年行われる統一地方選挙や国政選挙の前哨戦である。

など、注目に価するとともに、二五〇万府民の暮らしを左右する重要な選挙であり、京都を訪れる人々にとってもその影響は大きいのである。

日本の顔が京都とすれば、山本宣治、河上肇、末川博、蜷川虎三、湯川秀樹、近頃、活力という言葉を耳にするが京都の活力は平和の中から生まれ、平和の中にあることを、その歴史は物語っている。

京都は学術、文化、芸術、伝統産業をはじめ近代産業に至るまで、平和（戦争反対）と腕（技術）と頭（研究）に支えられ、それを暮しや経営に生かすことによって発展して来た。云わば土地と資源に乏しい日本の進むべき道を示している縮図である。

今回・選挙の特色

今回の選挙は久方ぶりに保守の現職に対して革新が新人で対決する選挙となるようである。従つて革新が攻め、保守が守りにまわるのも昭和二十五年以来のことである。また革新の代表、蜷川虎三、保守の前尾繁三郎、と、相ついでの死去も影響するであろう。また前回の三極選挙が今回二極選挙と予想されるなど選挙の姿も大きく変化するであらう。

しかも政府は行政改革の名のもとに軍事力強化と福祉、医療、教育の後退など地方自治体にもそのしわ寄せが及びつあるときであり、春斗のヤマ場に行われる選挙でもある。とりわけ京都府民の生活と京都の将来がかかる選挙であるだけにこの斗争は重要である。

一、戦争か平和か

二、民主主義か反動か
三、中央直結か地方自治か
四、住民本位か財界中心か

いづれ選択の時が来るであらう。

選挙になるとよく一党一派に偏せず市町村はお互に調整をはかるべきことも定められているもので、本来政治の問題ではない性質のものであらう。

憲法を暮らしの中に
勝利のために

三条 静子

従つて、先に述べた四つの点についていかなる政策が掲げられるかその本質を見抜くことが必要ではなかろうか。

憲法を暮らしの中に
勝利のために

これは 主権在民のたたかい
二五〇万府民の願い

知事は暮らしの防波堤

知事は都道府県という自治体の代表者であり統括者である、その顔は府民の幸福と京都府の繁栄を約束できる人でなければならない。

また国と市町村との間にあって暮らしの防波堤の役割を果して頂ける人であり、清潔で清新で身を捨てて世直しが生きる知事を期待したいものである。

今の世の中は丁度昭和二十五年、蜷川さんが初めて当選の頃の状況とよく似ている。

中小企業の倒産と不況は日増しに拡がり、失業者は増大の一途をたどり、それを待っていたかのように反動勢力など財界の死の商人たちは、反共宣伝と弾圧をくり抜けて朝鮮戦争へと向ったのである。蜷川さんはその時の知事選において円山音楽堂に集つた二万人の聴衆を前にして「反共は戦争前夜の声であり、組合弾圧は戦争への道である」と訴えた。



ふたたび
憲法を
暮らしの
中に……

勝利は われわれのものに
このたたかいに 勇気と情熱を
勝利は われわれのものに

四年に一度の知事選挙は府政についてみんなの関心が高まる時期であり、勝敗だけでなく政治啓蒙の絶好の機会であることも忘れてはなるまい。

(稻田達夫)

知事選勝利のために

軍国主義復活というキナ臭い雰囲気と、不景気のなかで一九八二年はありました。ロッキーード裁判、相次ぐ政府機関の腐敗が、明らかになって行政の改革と財政の再建が輿論になると、鈴木内閣は、財界主導の行政改革、そして福祉教育切り捨て、軍事予算突出という途方もない予算を出してきました。現在の政府露骨にアメリカ帝国主義に屈従を明らかにした政府はない。アメリカが軍備を増強せよといえど、何をおいても直従し、国連での核兵器不使用の決議で考えられないことをしている。

本の代表が反対する等、到底我らの常識で考えられないことをしている。このようないくつかの政府の態度が、地方自治体に影響を受けない筈はない。新聞の報道では福祉、住民のサービス事業は削減され、軍備増強による赤字財政がますます増加している状態が明らかにされている。このことは京都府に於ても例外ではない。いやむしろこのような政府との直結ぶりを、林田府政は誇りにさえ思っている。

蟻川府政にかわった林田府政は「憲法を暮らしのなかに生かそう」の垂れ幕をいちはやくおろして以来、福祉事業では、吉田保育所を始め労働セッジメント等施設の切り捨て、老人医療費無料化制度の後退などで五千人以上のお年寄りを切り捨て、又受益者負担を強化して高校授業料は三年連続値上げ府営住宅賃の値上等公共料金の値上がりに「京都食營」で有名だった農業では強制転作推進で骨抜きにし、中小企業

えの業種は、蟻川府政の時は八二・五%が、五五年度の林田府政では七八・六%と激減する等、これ等はほんの一例にすぎないが、府民生活を圧迫する行政に変りはてている。

戦前戦中の暗黒政治、弾圧をうけ、これまで斗い、戦後日本の民主的建設に微力をつくしてきた我々は、何よりも今のが昔に逆戻りしつつある危険をひしひしと感じる。この政治をかえる事。その手始めに知事選挙で勝利し、憲法を実現すること。このことが何よりも大切である事を身をもって体験している。我々の総会でもこの知事選勝利のために奮斗することを決議した所以はここにある。

昭和二十五年の市長選挙を契機に全都労組統一協議が中心になり全京都主戦線統一協議が結成され、市長選、知事選を勝利した。当時も労働戦線は分裂していたが、当時の政府の賃金凍結の壁を破る人は統一して斗う以外にならないということが大きな理由であった。情勢は違うとはいえ、今こそ統一が必要である。残念ながら分裂の状態にあるとはいって、我々はあく迄も統一の為に努力しつつ、蟻川さんと共に民主府政をつくりあげてきた我々が、新しい民主府政を再建することが何よりも急務であり、全国の民主勢力の期待にこたえることでもある。

(T・A生)

250万府民の知事候補 (川口ただし)さん……とは

執念燃やす人

川口さんは、知事選挙に際し、「反自民、憲法と地方自治と府民の暮らしを守る」という点で一致する革新勢力の大団結をよびかけました。そして「そのため役立つことならどんなことでもやろう」という信念に生き、革新統一の実現に執念を燃やす人です。

○心やさしく、力強い人

杉村 敏正

私は川口さんを次のような人だと思います。きわめてすぐれた憲法学者であり、しかも単なる憲法理論の研究家ではありません。憲法を現実に生

えの業種は、蟻川府政の時は八二・五%が、五五年度の林田府政では七八・六%と激減する等、これ等はほんの一例にすぎないが、府民生活を圧迫する行政に変りはてている。

川口さんは、蟻川知事と同様に、地方自治の本旨は住民自身が暮しを築く権利をもち、これを圧迫する中央権力と妥協なくたたかう』という信念の持ち主です。

○日本で有数の憲法学者

川口さんは、蟻川知事と同様に、地方自治の本旨は住民自身が暮しを築く権利をもち、これを圧迫する中央権力と妥協なくたたかう』という信念の持ち主です。

川口ただしさんの 経歴とおいたち

○蟻川ただしの 経歴とおいたち

かし平和と人権を守るために、さまざまな運動に参加されてきた人です。

国際、国内の経済、政治について詳しく、社会の発展の科学的法則にもとづいて大局的に物事を判断する識見あざやかで心やさしい人です。

一九四七年(昭和二年)二月十八日、台湾で炭坑を営む家の四人兄弟の末子として生まれる(五十五歳)。

敗戦まで台北一中学、台北高校、台北帝大に在学。中学時代四年間は、剣道で身体をきたえる。十八歳の時、父と死別。

一九四七年、当時の淀川工業専門学校(現大阪府立大学)教授であったお兄さんの勧めで台北帝大から京都大学法学部に転入学、同卒業、同大学院入學。

一九五三年、神戸市外国语大学講師、助教を経て一九六六年、京都大学教育部助教授、一九七一年に同教授。この間、公立大学教職員組合協議会事務局長、委員長、六八年、六九年には、京都大学職員組合中央執行委員長。六九年から十二年間、京都国家公務員労働組合共闘会議議長。蟻川知事時代には長年にわたり府職員研修所の講師として憲法と地方自治を教えた。

著書には「憲法の考え方」「武器など多数。

作 戲

新今昔物語

西村清三

(1)

経験を分母で世渡る成り金

今は昔、京都の北、左大文字山のふもとに住みし男ありけり。

敗戦のとき、舞鶴に軍属としてありしが、どさくさに、白砂糖を大トラック2台、※屁がましけるを、もとで、すこし知りたる調味料つくり一ト儲けせんとはかりけるとなん。

國破れて食べものなし。口にいるもの需要に需要かさなりて、開売り、広くそこなく表もおおく商売は、ねむるいとまなきほどに繁昌しける。繁昌は、売上の増となるは、ことのなりゆきにて、となりて、ばかばかしさを、いかばかりまぬがれんものと、生計を守る会なるものにいりたり、それのみにてはいまだ心みて。税務署のおんおぼえめでなければ、たよるは共産党なりとおぼえて入りにける。

「商売繁昌もつてこい」は十日えびの儲けが儲け生み、数年にして富いやがうえにもふえ、いまは都にかくれなき成り金とはなれり。ふところぬくぬくと温もり、いつのまにやら肌のいと色めきたる二号でき、三号に逞しくグラマーナなるが、そめにしかば、この男共産党的モラルというをいみにけるとなん。いとすげなく党を袖にぞしける。

もつぱら己の富ふやすにおもいをはせ、生計を守る会も費用かさみ、あれこれ、あれこれのカンパなどおおく、わがふところを恩きせがましくねらいおるにやとこそおもわれ、いまは金ふやすわが意に反すべければこの会もまた出でにけるとなんきこえし。

かれおもえらく、わが富はおしなべて、わが才覚と腕のしからしむるところによる。しかり、さもありなんと鼻たかだかと同業者どもをみくだしてん気持ち、いとこちよかりけり。使用者、はじめ二名、三名、五名ばかりなりしも、工場拡張店舗増築にとまり、いつのまにやら五〇名が七〇余名となり、販路は近畿一円に網の目をひろめ、中部、中国地方にものひたり。店は株式組織、この男初代代表取締役社長に就任。さても一流メーカーに鰐上りにのぼりしおもいにて自信のほどこそ。自他ともにゆるすとぞみえし。

社長、わが学歴の小卒なるを会うひとごとに次きたり。こここのうち、学歴いかようによくとも金をこそよく儲けぬともがはは、学なきものにもおどるならずやと、あざけりわいたきなり。うでなり力なり。世のなかしかなめり。われにまされるやからなきをもつて、すべて世のものることなるによるなるべし。主任こそその証なり。さてさて、この小僧のかくあるは、販売主任の管理と販促指導のおろそか

もつぱら己の富ふやすにおもいをはせ、生計を守る会も費用かさみ、あれこれ、あれこれのカンパなどおおく、わがふところを恩きせがましくねらいおるにやとこそおもわれ、いまは金ふやすわが意に反すべければこの会もまた出でにけるとなんきこえし。

さてここに、使用者おおくなれば、さまざまの癖もちくるはやむなしといえども、なまにひとり昼食くうとき、いつもいつもまづきものくらいおるごとく、ゆっくり、にちやにちや食うものありけり。よわい二十才なる蒼白きた出でにけるとなんきこえし。

かれおもえらく、わが富はおしなべて、わが才覚と腕のしからしむるところによる。しかり、さもありなんと鼻たかだかと同業者どもをみくだしてん気持ち、いとこちよかりけり。使用者、はじめ二名、三名、五名ばかりなりしも、工場拡張店舗増築にとまり、いつのまにやら五〇名が七〇余名となり、販路は近畿一円に網の目をひろめ、中部、中国地方にものひたり。店は株式組織、この男初代代表取締役社長に就任。さても一流メーカーに鰐上りにのぼりしおもいにて自信のほどこそ。自他ともにゆるすとぞみえし。

社長、今太閤のごくワソマンたり。われさまとさんとせしに、口ごたえせしかつと顎つりあげ、主任め死にやがれとぞ腕ふるわせて怒りたりしを、みし申したるを。

夕昔、すぎにけり。社長いまは会長にて年老いたり。さりとて三号も年ふけてたれは四号に若きができる、さらにこまごまとまめまめしかば、かおのしゃわ刻々に皺よれども、ますます商魂おどろえず。調味料つくるは一つに火加減にこそあり。火加減は日ごとめし炊くなかにあきらかなり。者どもわれのなすをよく見よ。とてみづから火をもやして、大湯気吹きあげ得意なり。飯くうは、よく働き、よく動き、腹へらし、腹減りおれば食うものにパクッパクッとくらいくものとのかれが

れど真なりと信ぜり。科学的分析なんどむつかしき理論てふものは、金をこそ儲けぬものどもの屁理屈なりと申し、ひとり悦にいり札束かぞえりけられもほゆる。かれの今日あるはかれをつくりし家庭あり。富なくともそれが家風あり。生いたちの過程あるべからん。かれ怠けて食慾とぼしきにあらず。年若し。くいざかりなり。かりに怠けたりとて正午くるまで腹へる年ごろとなんおもほゆとこたえける。主任、天晴なり。と他の使用者たちとなりの部屋にむらがり笑いこらえおもて細長き男なりしが、社長の眼にとまれり。意にそわす。社長の神經にあしきしげきあたえることおびただしかりしとなん。

かれつらおもえらく、すなわち我こんにちの大をなしたるは労をおしまず、よく働き、よく働き、得意先の意をくみ、努力のうえにも骨身おしまず労をかさねしがゆえなんめり。よく働けばよくうごくがため、正午を待ちかねるがごとし腹減る道理なり。

腹へれば、空腹は昼食をうましとすること必常なり。飯うまければ、ひとみに飯にパクッパクッとくらいくなるほど。しかばねるがごとし腹減る道理なり。社長、今太閤のごくワソマンたり。われさまとさんとせしに、口ごたえせしかつと顎つりあげ、主任め死にやがれとぞ腕ふるわせて怒りたりしを、みし申したるを。

夕昔、すぎにけり。社長いまは会長にて年老いたり。さりとて三号も年ふけてたれは四号に若きができる、さらにこまごまとまめまめしかば、かおのしゃわ刻々に皺よれども、ますます商魂おどろえず。調味料つくるは一つに火加減にこそあり。火加減は日ごとめし炊くなかにあきらかなり。者どもわれのなすをよく見よ。とてみづから火をもやして、大湯気吹きあげ得意なり。飯くうは、よく働き、よく動き、腹へらし、腹減りおれば食うものにパクッパクッとくらいくものとのかれが

一家言いまだかくしゃくたり。

(5)

去んぬる晩秋の空そこぬけに青き
日曜日。かれ四号の奥の部屋に独りあ
り。あぐらかきゆうゆうたり。焼酎の
む男がうらはらに好物のあまり大福あ
またまえにおき食らいつつTVの相撲
みたりける。

よく働くものはにちやにちやくらわ
ず。空腹なればパクッパクッとくらう
なる。かれのつくりし定型あざやかに、
大口あけてぞうまかりし。五口、六口。
かれの好める力士のうつちやり勝つか

想 隨 超 大 国 と 民 国

齊藤雷太郎

(1)

いづれの国民も、自分達の国が強大
國で、富裕国になれば、それにつれて
自分達も幸福になると想い、誰でもそ
れを願つて生きて来たと思う。また各
国の支配、権力者もそのような夢を國
民に持たせて、今日まで来たと思う。
しかし現実は、そのようにはいかない
ようである。第二次世界大戦で自國
が戦場にならず、戦勝国となつたアメ
リカ、世界一の超大国で富裕国の大アメ
リカの国民は、世界中で一番幸福な國
民になつたと云えるであろうか。そう
でもないようである。

(2)

たとえば敗戦国日本と比べて見てど

この間、アメリカは朝鮮戦争とベト
ナム戦争とを二度体験して、何万人か
の死者を出し、何十万人かの負傷者を
出す、不幸な道を歩んだ。失業とイン
フレ、兇悪犯罪の増加等の国内不安を
多くかかえたアメリカは、国民の目を

うであるか。敗戦のお蔭で天皇制國
家から、主権在民の國家に変つた日本
は、平和と民主主義、文化国家がさか
んに云われた時代もあつたが、途中で
方向が変り、おかしな道を歩き始め、
心ある国民をハラハラさせている。い
ろいろあつたが、軍備にあまり金をかけ
なかつたのが経済にプラスして、世
界中の國からうらやまれたり、ねたま
れたりされるような経済大国になつた。

(3)

「正誤」前号8ページ「独・伊と日
本の國民」十九行目にゲリラ組織し
てナチスとたたかった。また、同三十
一行、無条件降伏は「無条件」の誤り
でした。

にみえしに力入り、力いれてぞバクツ
けば餅一とに咽喉にうつちやり入れる
は時の勢なるべし。咽喉の直径如何よ
うにのびんとそれども餅の量はなはだ
しければ詰まりけるもやむなし。

四号用たしてかえり、かれの眼むき
てのびたるをみつけしは、かれの好ま
ざる横綱の全優勝せしTV、ヒヨー
ショージョオのメリケンなまりおかし
とて観客わいざわめきたりけるとき
なりしとなんきこえし。

※ 軍隊で使つた隠語。かつばら
うこと。

外にむけさせるためか、ソ連の脅威を
声高に強調して、軍備増強を同盟諸国
に強要している。

このようなアメリカの戦争への道を
歩むかのような姿勢を、冷静に受けと
めている西欧諸国は、自國の国情に合
せた、独自の判断によつて、異常なあ
せりを見せるアメリカに対応している。

アメリカの笛に合せておどる日本は、
財政再建の立場にありながら、福祉を
削つて、アメリカの戦略に合せた軍備
を増強して、自國の国民に犠牲を強い
ている。経済大国日本の高くない立場
にいる人間は、常に泣かれる立場に
いる。

権力と金力に縁遠い、生活地位の高
くない国民は、どこの國の國民でも、
日あたりはよくないと云ふことである。
無一文で腕いつ本をたよりにして生
きる者と、金力といふ巨大な機械力を
使つて生きる者との相違である。魚を
取るにしても、釣竿一本と、トロール
船とでは、勝負にならない。

こんな解り切つたことは、云うまで
もないでのあるが、何時の時代も、く
りかえし云われて來た。要是は國民がど
のように、政治的な自覚を持つつかで
きる。どちらのみちをえらぶか國民の
意志を明らかにすべきである。しかも
その時期が近づいて來たと云えよう。
1982.2.5

事務局だより

▲本誌の発行がおくれることと、文

中で誤字が多いことで、会員、誌友の
みなさんからお叱正と激励をいただき
恐縮しています。

▲編集者は、本誌第一七号に「老を
いたむ——七九才を迎えて」の隨想を
記したように、老化がすすみ目、耳な
どの障害が強まり、さらに年末から年
始に約一ヶ月以上、下痢とせきがつづ
くなどのため、一月号、と本二月号の
発行がおくれ申証ありません。

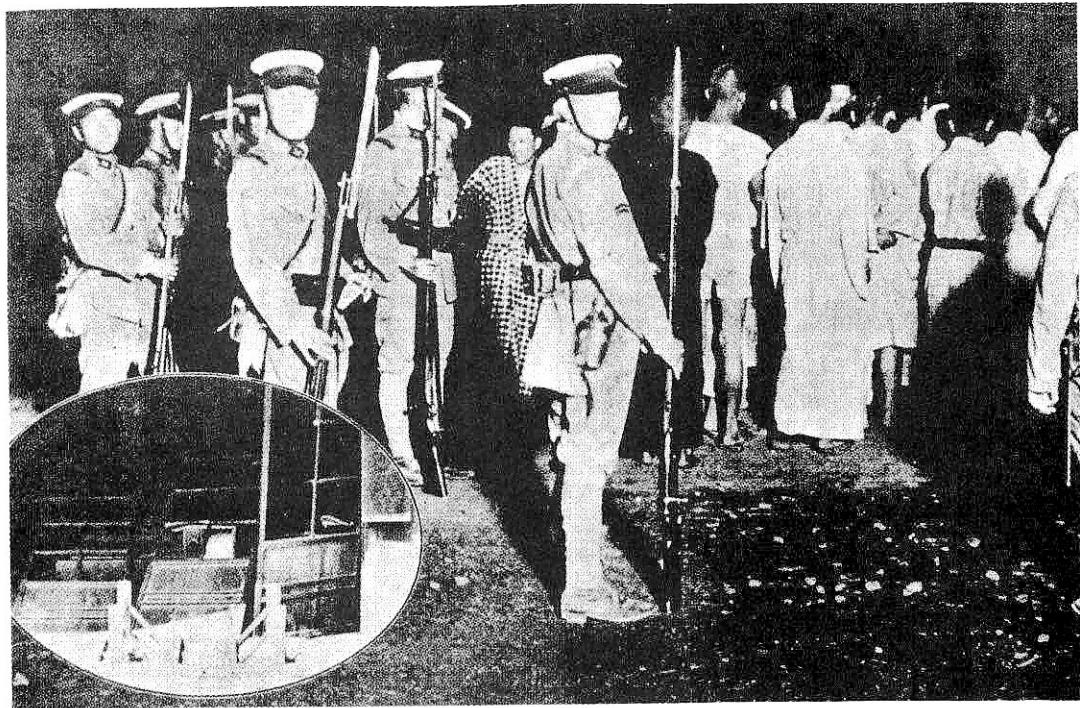
▲昨年、井垣、山田両世話を亡く
したので、本年度の総会で、世話を人を
増員補強しましたので、次号、四月号
の編集準備を併行して進めています。

▲とくにこの三月・四月は、京都府
知事選挙で民主府政にもどすことに全
力をあげられていますので、会員、誌
友各位から物・心両面(御寄稿、会費
誌代カンパン)のご支援によつて、皆さ
んのご期待に添うようガンバつていま
す。

▲巻頭「三号雑誌・十号新聞」など
との短命を評されてますが、本誌
「燎原」はすでに第二三号を重ね、各
方面から期待と注目をうけています。
私たち陣容の強化と、内容の充実に
さらに一段の努力を払う決意を新たに
しています。お詫びと共に、今後の御
支援を切におねがい申上げます。

「会員、誌友だより、領収書に代え
て」は、誌面の都合で、次号に割變し
ました。

(K)



上 鎮圧に出動した軍隊 8月12日、京都の米騒動にたいし、歩兵第38連隊が出動して警戒にあたった。

下 外米廃止の広告 8月12日、京都では外米7000石を1升21錢で現金引替のうえ売り出すと広告した。



(写真は三省堂発行の画報「日本近代の歴史」)

(8) 「民本主義の源流」より

目でみる京都の民主運動史 (1)

湯 浅 貞 夫

この号から紙面の一部をさいて、「目でみる『京都の民主運動史』」を連載することにします。

戦前は写真そのものが一般化していないなかのと、権力のきびしい弾圧の中で現場を撮ることが至難でしたが、その中から、京都や日本の民主運動にとって貴重な資料を選んで毎号掲載します。これを機会に埋蔵されている写真や資料を寄せていただきたい。

(一) 米騒動

一九一八年（大正七）世界の帝国主義列強は、生れたばかりのソ連社会主義共和国を抹殺すべく狂奔した。日本の寺内閣はシベリヤに出兵し米を買い込み、市中の米屋は値上がりを見越んで、米を売り惜しんだので米価は急騰し、民衆は困窮した。

富山の滑川の漁婦は、米の県外移出を拒否し、このニュースは全国に飛び火、八月八日京都七条内浜を先発に全国一千万人の米騒動に発展した。舞鶴には海軍工廠、園部では祭の御輿で米屋を襲撃し、日本近代史空前の大事件となり、さらに労働運動、部落解放運動を燃え上らせた。